

## 【様式1】

## 令和6年度 授業改善推進プラン

## 東久留米市立南中学校 第3学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査の結果から、読むことに関する事項の正答率が51.5%とやや弱い傾向が見られる。</li> <li>・授業ワークシートの記述から主語と述語の一致や文体の統一など、自分が書いた文章を見直し推敲する習慣が根付いていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間班活動を実施し、文章を読んで理解したことや考えたことを説明したり文章をまとめたりする学習の際に、場面理解や解釈が適切であるか検討する場面を設定することで、思考・判断・表現の観点がBの生徒を70%にする。</li> <li>・班活動を通して、互いに書いた文章を読み合い、改善策を提案し合う活動を單元ごとに1回行う。</li> </ul>	
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考・判断・表現については全国学力・学習状況調査の結果は全国平均より高いが、文章を読み込んで立式したり表現していくことに課題が見られる生徒も3割程度いる。</li> <li>・基本的な計算力に関わる内容の正答率が65%、数学的な表現力に関わる内容の正答率が70%と課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考・判断・表現に関する問題では小集団で意見を出させ、思考力を高め合えるようにし、発表させ表現力も付けられるようにする。課題のある生徒を2割に減らす。</li> <li>・振り返りシートや証明問題に取り組ませることから、数学的な表現に慣れる機会を設ける。計算力の定着を図るために計算テストを実施し、合格点に達するまで繰り返し計算に取り組ませる。</li> </ul>	
(英語) 外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査の結果から、長文を読み、要点をまとめたり、概要を捉えたりすることに苦手意識をもっている生徒が、4割、書くことに対して、苦手意識をもっている生徒が6割程度見られる。</li> <li>・日頃の活動の様子から、即興で伝える力に課題のある生徒が6割程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語学習の基本である、音読活動においてICTを用いた工夫を行い、英文を読むための素地を養っていく。</li> <li>・授業の初めに、ウォーミングアップとして話す活動、書く活動を取り入れ、アウトプットの量を増やすことで、パフォーマンステストや定期考査において、7割以上の生徒が苦手を克服できるようにする。</li> </ul>	
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査において、資料から読み取ったことを結び付けて表現することに課題がある生徒が約5割見られる。</li> <li>・政治に関する興味・関心を図るアンケートで、「あまり関心がない」または「関心がない」と回答した生徒の割合が約6割であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業内で複数の資料を関連付けて表現する取組を増やし、定期考査や小テストで定着度を確認し、思考・判断・表現の観点がBの生徒を70%にする。</li> <li>・授業で模擬選挙等を行い、政治に関わろうとする意欲を高める工夫を行う。</li> </ul>	
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査で、日常生活と科学との結びつきについて論理的に説明できない生徒が5割程度いる。</li> <li>・定期考査で、2年生までの既習内容について基本的知識の定着を要する生徒が5割程度いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シミュレーションや動画などの視聴を通して身の回りの事象の変化に興味をもたせ、考える場面を増やすことで論理的な説明ができる生徒を7割以上にする。</li> <li>・既習内容を定期考査で繰り返し出題したり、授業では演習問題を取り組ませたりすることで基本的知識をもつ生徒を7割以上にする。</li> </ul>	